

# わかりやすい財政公表

---

～八尾市のお金の使いみち～

令和元年度決算

八尾市 財政部 財政課

## ～ 目 次 ～

1. 財政ってなに？	2ページ
2. 決算をみてみよう	
① 会計の種類	3ページ
② 一般会計決算の概要	4ページ
③ 歳入決算の内訳（入ったお金）	5ページ
④ 歳出決算の内訳（使ったお金①）【目的別】	6ページ
⑤ 歳出決算の内訳（使ったお金②）【性質別】	7ページ
⑥ 特別会計、企業会計決算の概要	8ページ
3. 借金はどれくらいあるの？	9ページ
4. どうして借金するの？	10ページ
5. 借金は多いの？少ないの？	11ページ
6. 貯金はどれくらいあるの？	12ページ
7. 財政状況は大丈夫？	13ページ
（参考）八尾市の家計簿	14ページ

# 1 財政ってなに？

地方公共団体は、子育て世帯・高齢者・障がい者に対する支援、ごみの収集・運搬、道路・公園・下水道の整備、消防・救急業務、小・中学校の運営など、さまざまなサービスをおこなっています。

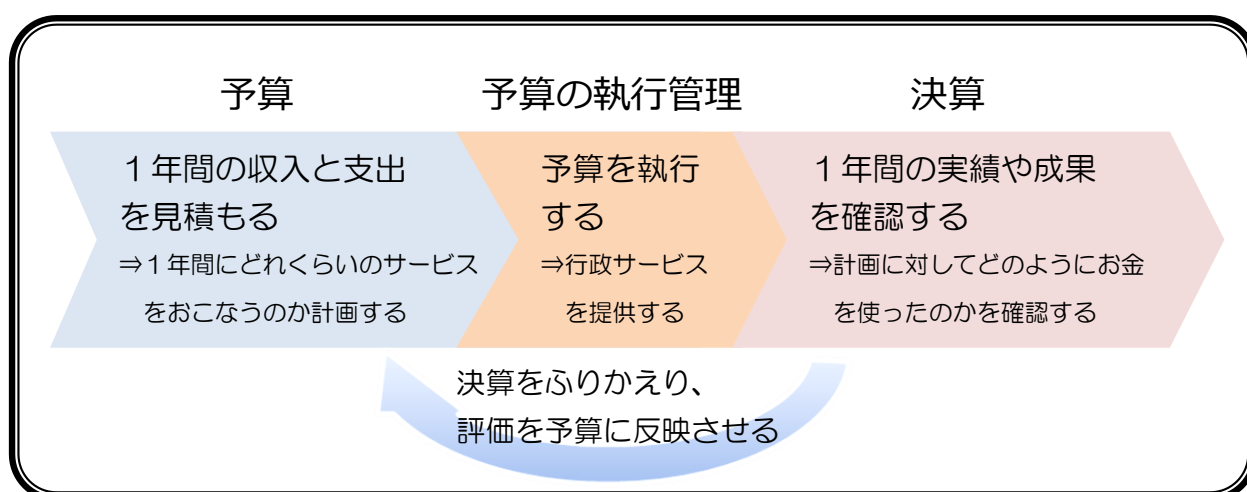
これらのサービスを計画的におこなうために、毎年度（4月～翌年3月）

①使えるお金がどのくらい集まるかを予測したうえで、その使いみちを決め、 = 「予算」

②予算の範囲内で行政サービスをおこない、  
= 「予算の執行管理」

③最終的にお金がどのくらい集まり、どのように使われたかを確認します。  
= 「決算」

⇒ この一連の流れを、財政といいます。



## 2 決算をみてみよう

### ① 会計の種類

「会計」とは、市のお財布のことです。事業の内容に応じてお金を分けて管理するために、八尾市では、「一般会計」「特別会計」「企業会計」の3種類のお財布を作っています。

それぞれの会計が管理するお金は次のとおりです。

一般会計	特別会計	企業会計
福祉、医療、子育て、教育、道路や公園の整備など、市民の暮らしや、まちづくりに必要な基本的な行政サービスをおこなう会計です。 市税は、主にこの一般会計で使われています。	保険料など特定の収入によって事業をおこなう、その収支を明確にするために一般会計とは別に設置した会計です。 国民健康保険事業など計6つの会計があります。	民間企業と同じように事業収益によって運営している会計です。 病院事業と水道事業と公共下水道事業の計3つの会計があります。

それでは、次のページから会計別の決算内容についてみてみましょう。

市の会計は、一般会計で一番大きなお金を管理していますので、一般会計を中心にみていきます。

## ② 一般会計決算の概要

令和元年度の一般会計決算は、

入ったお金（歳入）は、1,014 億 2,009 万円、

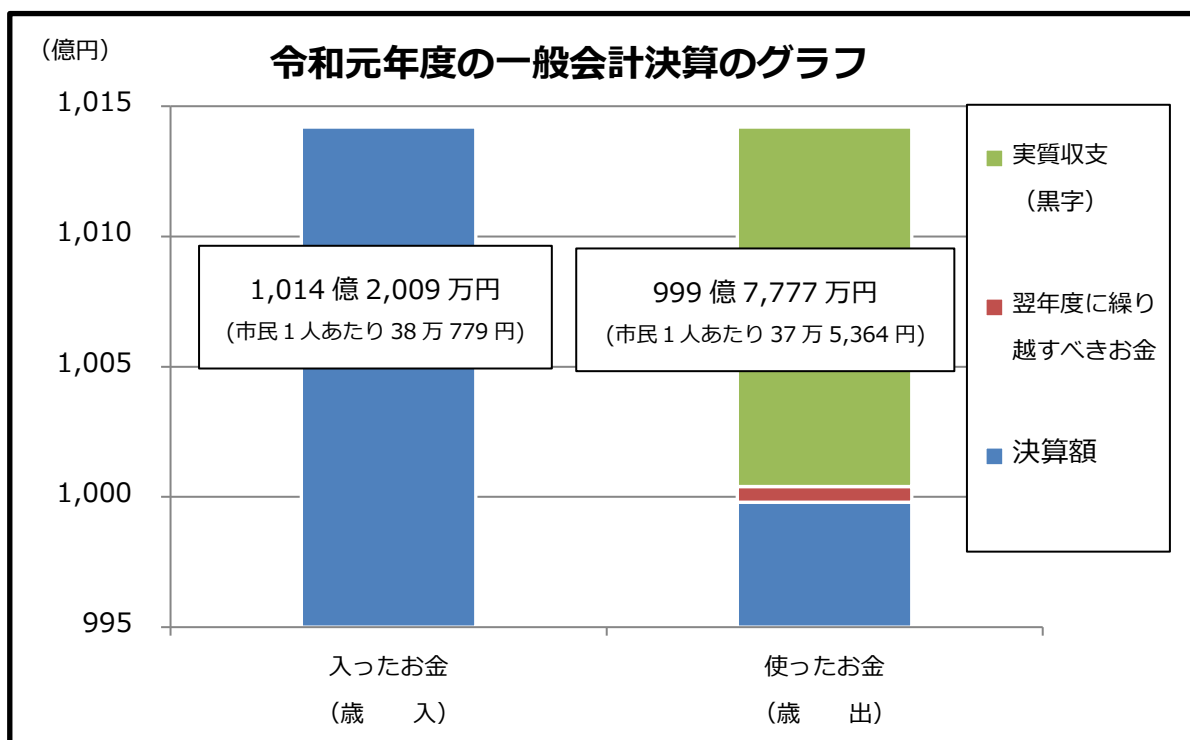
使ったお金（歳出）は、999 億 7,777 万円です。

また、

残りのお金（形式収支 = 歳入 - 歳出）は、14 億 4,232 万円で、

そのうち 5,739 万円は、令和元年度中に完了しなかった事業のためのお金として翌年度に持ち越して使います。

結果、13 億 8,493 万円が残り、令和元年度決算は黒字（実質収支）となりました。



### ★ポイント★

令和元年度一般会計決算は前年度に続き、財政調整基金を取り崩すことなく黒字となりました。

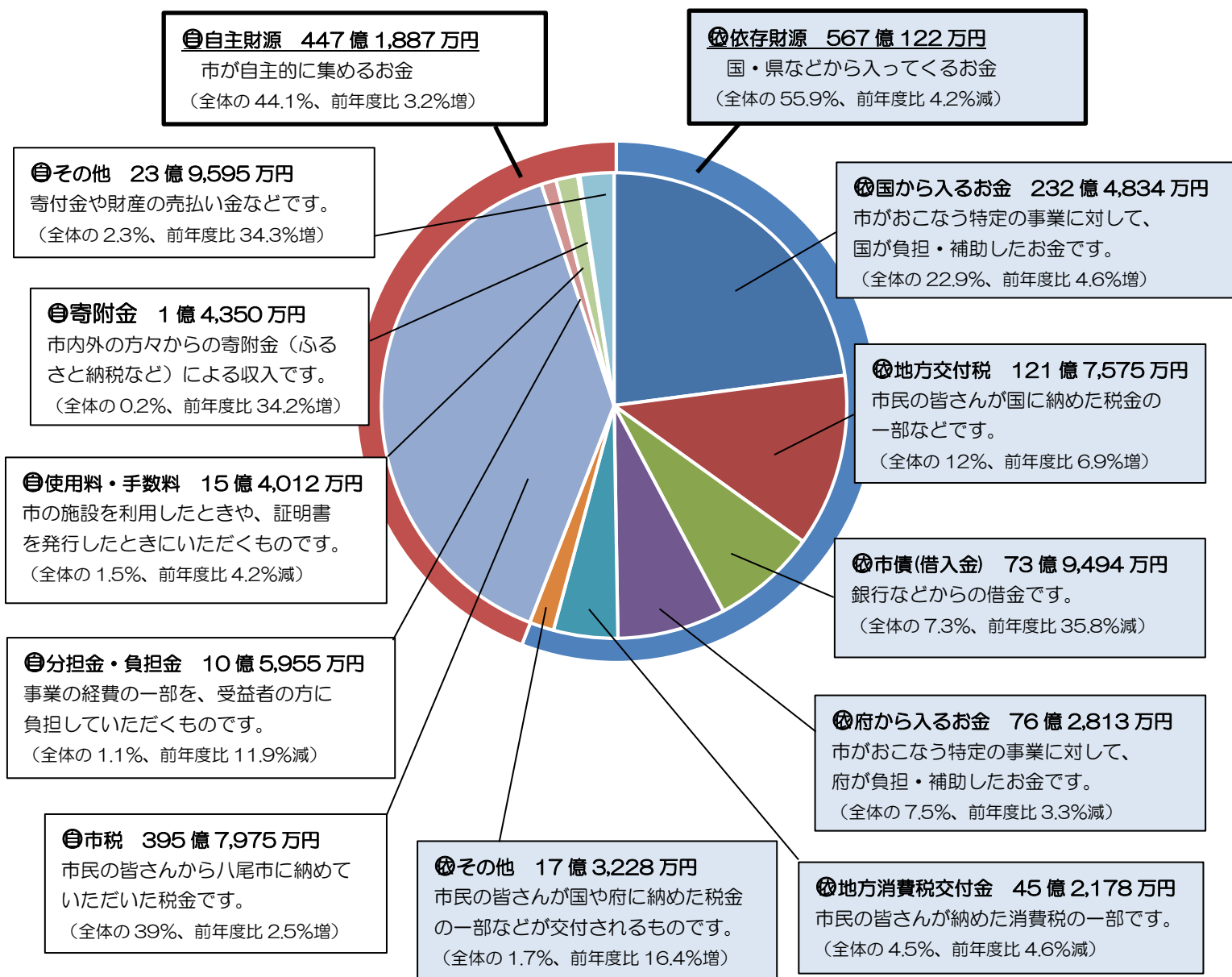
※市の貯金（基金）については 12 ページで説明します。

### ③ 歳入決算の内訳（入ったお金）

市に入るお金は次のとおり大きく2つに分けることができます。

「市が自主的に集めるお金」 = 自主財源 ※グラフ中で㊟をつけているもの

「国・府などから入ってくるお金」 = 依存財源 ※グラフ中で㊤をつけているもの



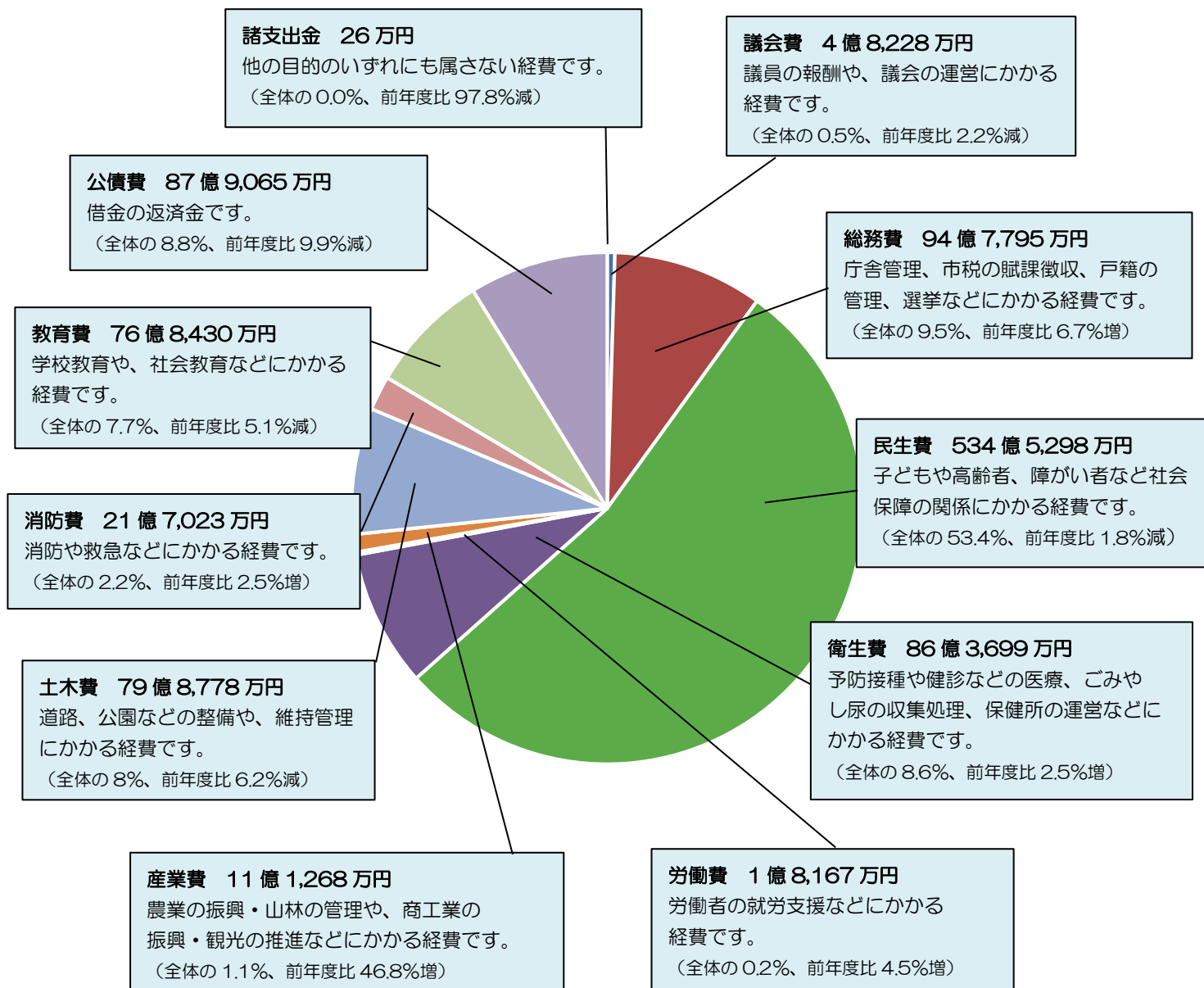
#### ★ポイント★

収入の柱である市税を含む自主財源は全体の44.1%と半分以下であり、市の運営は自主財源だけではまかなえない構造になっています。そのため、自主財源のさらなる確保に向けた取り組みを進めており、ふるさと納税制度の拡充やガバメントクラウドファンディングなどの取り組みを進めたところ、寄附金収入は昨年度比約34.2%増となりました。また、国・府の動向をふまえて事業を行うことで、国・府から入ってくるお金の確保にも努めています。

#### ④ 歳出決算の内訳（使ったお金①）【目的別】

次に、お金の使いみちについて見てみましょう。

まずは、「何のために」お金を使ったかです（【目的別】の使いみちといいます。）。



#### ★ポイント★

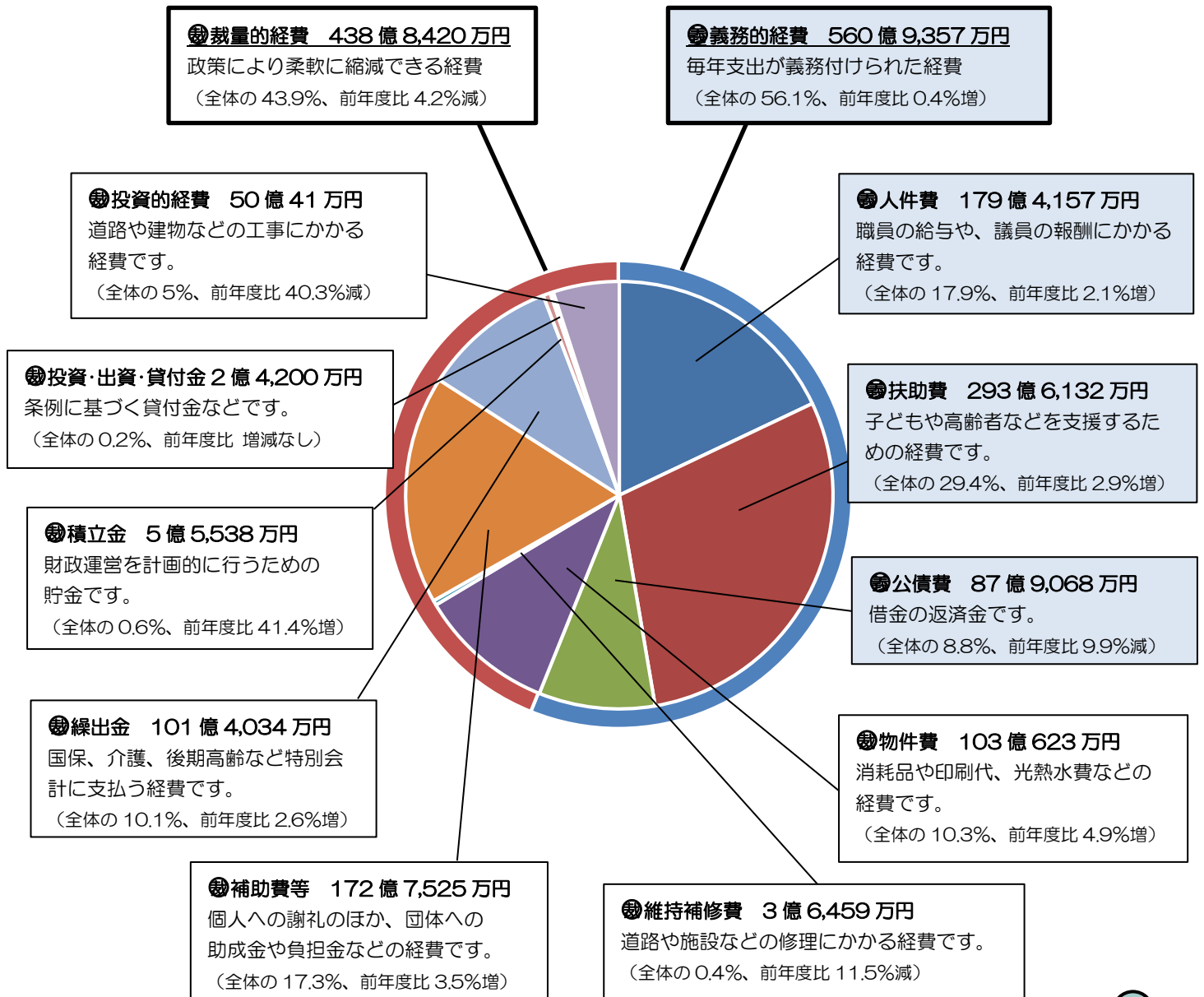
一番多いのは「民生費」で、子育てや福祉関係にお金を多く使っています。「民生費」は、国における「幼児教育・保育の無償化」の実施、待機児童対策、医療費助成や障がい者サービスなどの社会保障関係経費の伸びにより、今後も高い水準で推移することが見込まれます。なお、「産業費」は、消費税率10%への引上げに伴うプレミアム付商品券の発行により大幅増となりました。

⑤ 歳出決算の内訳（使ったお金②）【性質別】

続いて、「どんなことに」お金を使ったかです（【性質別】の使いみちといいます。）。

「政策により柔軟に縮減できる経費」＝ 裁量的経費 ※グラフ中で⊕をつけているもの

「毎年支出が義務付けられた経費」＝ 義務的経費 ※グラフ中で⊙をつけているもの



★ポイント★

義務的経費が全体の半分以上を占めており、このうち扶助費は今後も増加すること、公債費は集中的に実施した学校園施設耐震化事業の借金の返済などにより高い水準で推移することが見込まれています。また、裁量的経費のうち繰出金についても、高齢化の影響による医療費・介護関係経費の伸びに伴い、今後も増加することが見込まれています。



## ⑥ 特別会計、企業会計決算の概要

最後に、特別会計と企業会計の決算状況について見てみましょう。

### ○特別会計

	入ったお金 (歳入)	使ったお金 (歳出)	余ったお金 (形式収支)	翌年度へ 繰り越す べき財源	(実質収支)
国民健康 保険事業	299億8,136 万円	298億150 万円	1億7,986 万円	0万円	1億7,986 万円
財産区	88万円	88万円	0万円	0万円	0万円
介護保険事業	254億3,711 万円	253億3,363 万円	1億348 万円	0万円	1億348 万円
後期高齢者 医療事業	68億5,746 万円	68億2,085 万円	3,661万円	0万円	3,661万円
土地取得事業	7億9,014 万円	7億9,014 万円	0万円	0万円	0万円
母子父子寡婦 福祉資金貸付金	6,156万円	3,153万円	3,003万円	0万円	3,003万円

### ○企業会計

	総収益	総費用	単年度収益
病院事業	148億859万円	150億3,839万円	▲2億2,980万円
水道事業	57億549万円	51億2,935万円	5億7,614万円
公共下水道事業	96億5,552万円	91億3,268万円	5億2,284万円

#### ★ポイント★

病院事業会計については、新型コロナウイルス感染症対応に起因し、患者数が大きく減少するなど、収益に影響が現れ、9年ぶりに赤字決算となっています。

また、特別会計ではすべての事業で黒字決算となっています。

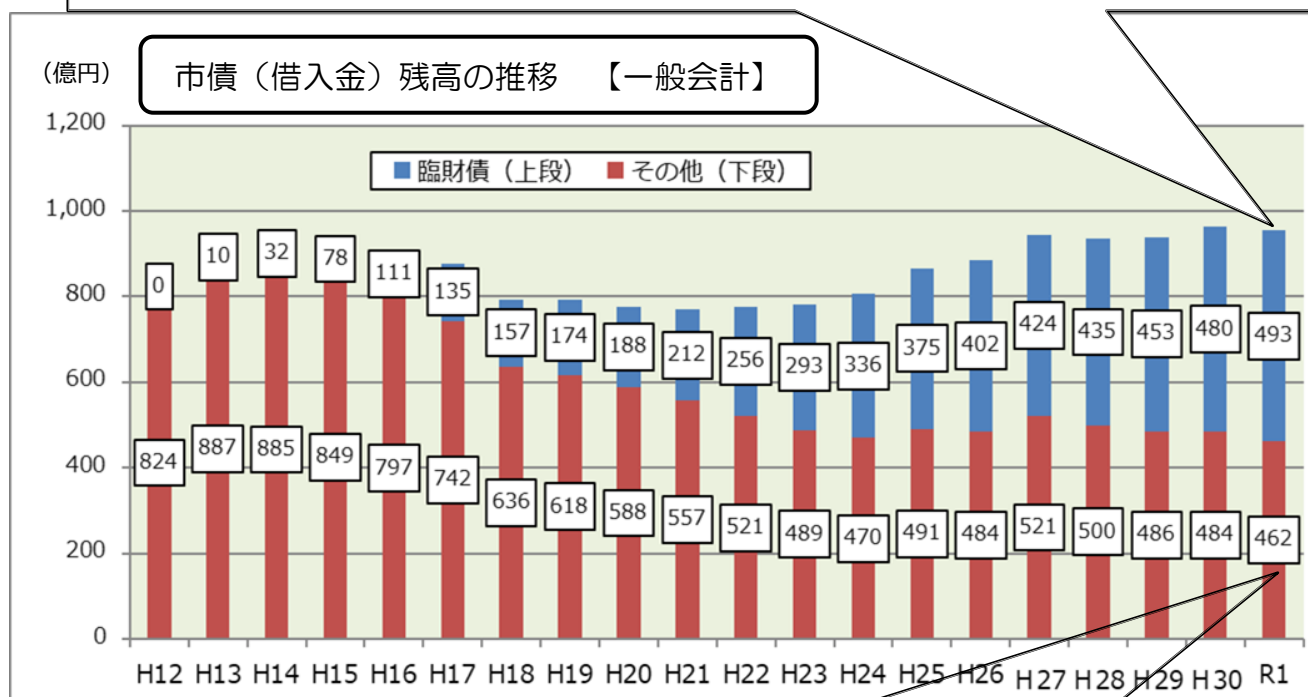
### 3 借金はどれくらいあるの？

一般会計における八尾市の借金は、令和元年度末時点で、約 955 億円あります。

これは、市民 1 人あたりに換算すると、約 35 万 8,000 円（臨時財政対策債を除くと約 17 万 3,000 円）になります。

また、国の代わりにの借金である臨時財政対策債の残高が年々増加しており、全体の約 52%を占めています。

臨時財政対策債（臨財債）は、国の財政状況が良くないことから、地方交付税の一部を地方自治体に借金させる制度として始まり、平成 13 年度から発行しています。  
国の財政状況が良くない状況が続いていることから、臨財債の残高は増加しています。



臨財債以外の市債（借入金）は、主に公共施設の建設のために使われたお金です。  
平成 13 年度以降、市債（借入金）の残高は減少を続けてきましたが、学校園施設耐震化事業を平成 23～27 年度の間で重点的に進めたことから、ここ数年は横ばいの状況となっています。

#### 用語の解説

##### 地方交付税

地方公共団体間では、都心部と過疎地では人口・企業数等に大きな差があるなど、毎年入っていくお金にバラつきがあります。その中で、どの地域に住む人にも一定の行政サービスを提供できるように、国が集めた税金の一定割合の額等を、国が地方公共団体に交付する制度です。

##### 臨時財政対策債（臨財債）

国が地方交付税を交付するにあたり、国の財政状況が良くないために準備しきれないお金の一部を、地方自治体自らに市債を発行（借入）させる制度です。その返済（償還）に必要なお金は、後年度に国から全額地方交付税で措置されますので、地方交付税の代わりとなるお金といえます。

## 4 どうして借金するの？

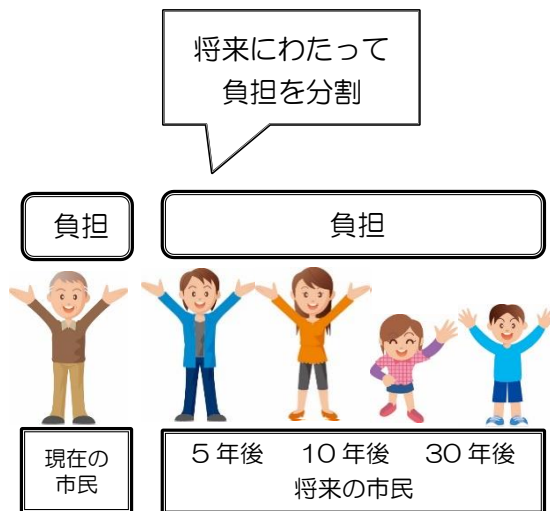
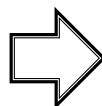
例えば学校を建てると、その後、何十年と使っていくことになるので、建てたときの世代の人たちだけでこのお金を負担するのは不公平です。建てる際に借金をして分割払いにすることで、将来の世代の人たちにも公平に負担してもらいます。

また、建物や道路の整備には多額の費用がかかるため、一度に支払ってしまふと、その年度は保育所の運営やごみの収集など他のことができなくなってしまうため借金をしています。

### 【市民負担のイメージ】



建設費をその年度の市民だけで負担するため将来の市民の負担はなくなります。



長い間かけて使うことができるものは、将来の市民も公平に負担する方が平等です。

### ★ポイント★

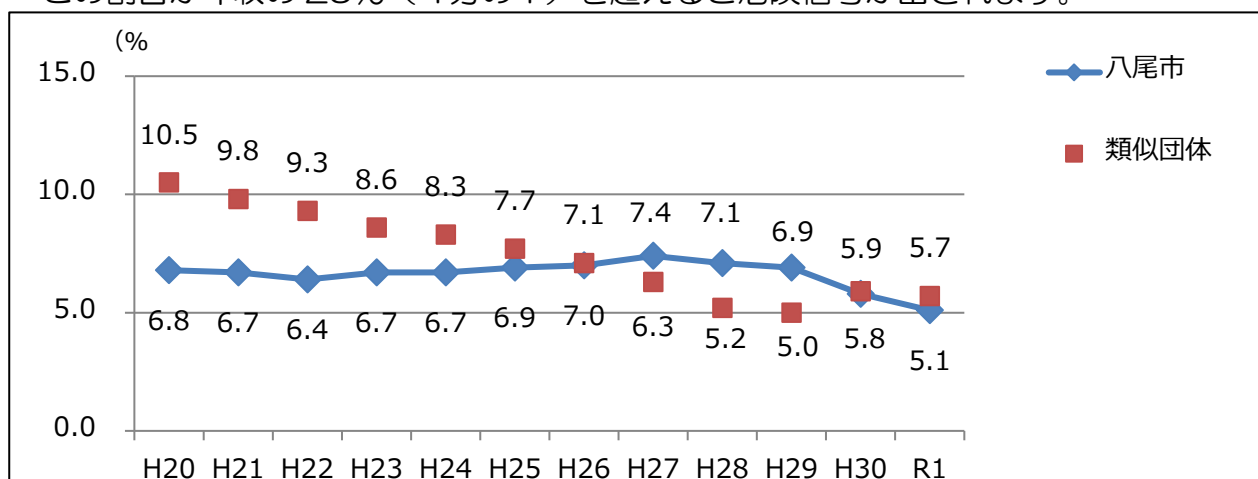
借金というと、「赤字の穴埋め」というイメージがありますが、市が行う借金は、基本的に建物や道路などを整備するためのものです。

毎月の生活費のために借りるのではなく、住宅ローンのように、何年も使っていくような大きな買い物の際にだけお金を借りています。

## 5 借金は多いの？少ないの？

### 実質公債費比率

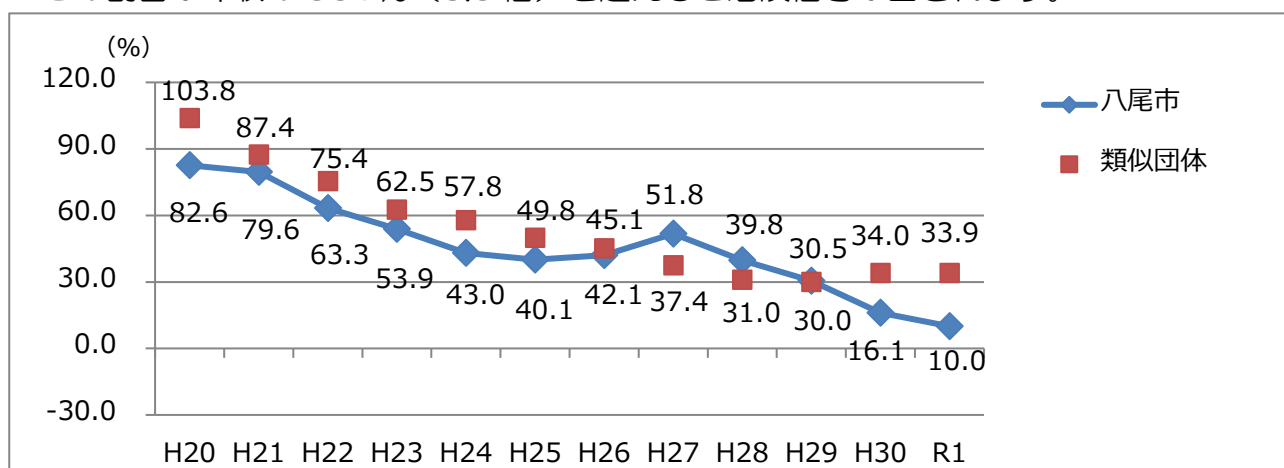
「実質公債費比率」とは、1年間の収入に対して借金の返済額がどれくらいの割合になるのか、借金返済の負担が大きすぎないかをチェックするための国が定める基準です。この割合が年収の25%（4分の1）を超えると危険信号が出されます。



### 将来負担比率

「将来負担比率」とは、借金や今後支出が見込まれる費用（職員の退職金など）のように将来負担しなければいけないお金が、1年間の収入に対してどれくらいあるのか、将来の負担が大きすぎないかを判断するための国が定める基準です。

この割合が年収の350%（3.5倍）を超えると危険信号が出されます。



#### ★ポイント★

八尾市は、いずれの比率も国の基準を下回っていますが、近年は実質公債費比率において、類似団体よりもやや高い水準にありました。その理由は、学校園施設耐震化事業などの大規模事業を進めるために必要な借金（市債の発行）をしてきたためです。また、危険信号が出されると早期健全化団体と呼ばれ、財政再生計画の作成が義務付けられるなど一定の制約を受けることとなります。

## 6 貯金はどれくらいあるの？

市の貯金のことを「基金」といい、八尾市には、大きく分けて次の2種類の貯金（基金）があります。八尾市の貯金（基金）は、令和元年度末時点で、約86億円あります。これは、市民1人あたりに換算すると、約3万2,000円になります。

### ①「財政調整基金」

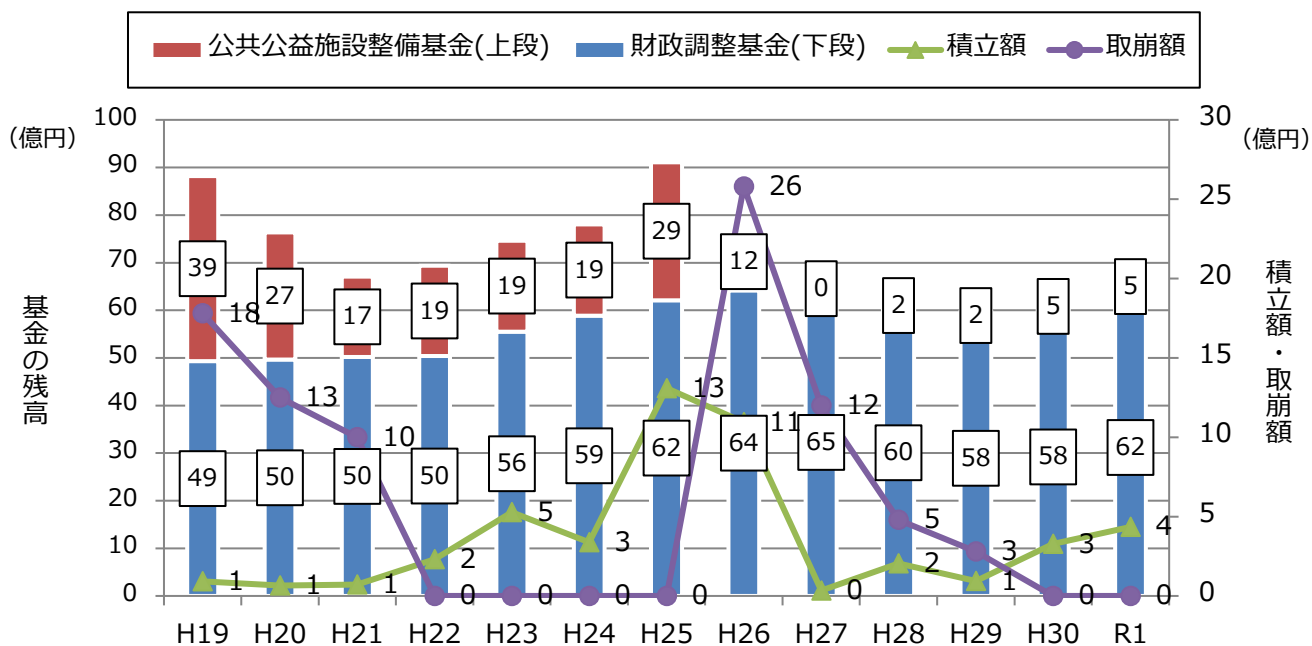
市の財政状況に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで財源を調整し、計画的な財政運営を行うための貯金です。

### ②「特定目的基金」

市の条例で定めた特定の目的を計画的に実施するための貯金です。主なものとして、公共公益施設の整備のために取り崩す「公共公益施設整備基金」があります。

⇒これらのうち、市の主な貯金（基金）である「財政調整基金」と「公共公益施設整備基金」の残高の推移は下のグラフのとおりです。

残高の推移 【財政調整基金と公共公益施設整備基金】



### ★ポイント★

令和元年度は前年度に続き、基金を取り崩すことなく黒字決算となりました。

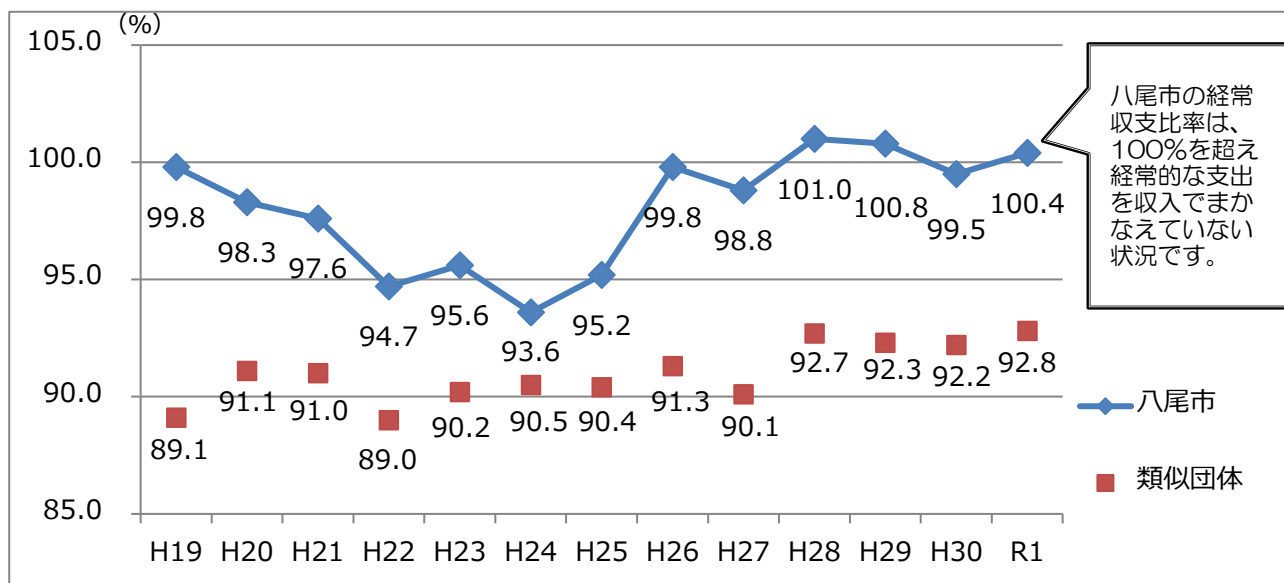
なお、財政調整基金・公共公益施設整備基金の主な2つの貯金をあわせた残高は、約67億円となっています。

## 7 財政状況は大丈夫？

令和元年度の決算状況をあらわす数値としてもう一つ、「経常収支比率」という指標をみてみましょう。

### ●経常収支比率とは・・・

毎年入ってくるお金が、どれくらい臨時的なものを除く義務的な経費に使われているかを示す割合をいい、この割合が高いほど、市が自由に使うことができるお金が少ないことになります。



### まとめ

令和元年度は経常収支比率が100.4%となり、前年度の99.5%と比べると0.9ポイント悪化しましたが、貯金（基金）を取り崩すことなく黒字決算となりました。ただし、経常収支比率は、類似団体と比較すると高い数値となっており、油断できない状況です。

八尾市は、実質公債費比率や将来負担比率から分かるように借金残高が類似団体と比較しても多すぎる訳ではありませんが、義務的に発生する経費を見直し、さらに効率的にお金を使うことが重要であるといえます。

今後、高齢化や子育て世帯などに対する社会保障関係経費や借金の返済金など、毎年かかる義務的なお金は高い水準で推移することが見込まれています。限られた行政資源を最大に活用するために、令和元年度に策定した「新やお改革プラン」に基づき、社会状況の変化等をふまえた事業の廃止や縮小、新たな歳入の確保等に取り組みを通じて、持続可能な行財政運営をおこなうことが必要です。

※決算の詳細内容は「八尾市財政の概要【令和元年度決算状況】」を市ホームページに掲載していますので、そちらを確認してください。

## (参考) 八尾市の家計簿

八尾市の一般会計決算額を、年間の総収入が400万円の世帯に置き換えてみました。

収 入				支 出			
内 容	H30年度	R1年度	増減	内 容	H30年度	R1年度	増減
給料・本給 (市税)	153 万円	156 万円	3 万円	食 費 (人件費)	69 万円	70 万円	1 万円
給料・諸手当 (地方交付税・国庫支出金・ 府支出金)	163 万円	170 万円	7 万円	医療費・保育料 (扶助費)	113 万円	116 万円	3 万円
パート収入 (使用料・手数料・分担金・ 負担金・財産収入など)	42 万円	41 万円	▲ 1 万円	借金の返済 (公債費)	38 万円	35 万円	▲ 3 万円
貯金の取り崩し (基金からの繰入金)	1 万円	1 万円	0 万円	自宅の増改築費 (投資的経費)	33 万円	20 万円	▲ 13 万円
前年度からの繰り越し (繰越金)	0 万円	3 万円	3 万円	光熱水費・日用品代 (物件費)	39 万円	41 万円	2 万円
銀行からの借入れ (市債)	45 万円	29 万円	▲ 16 万円	車や家電の修理代 (維持補修費)	1 万円	1 万円	0 万円
合 計	404 万円	400 万円	▲ 4 万円	町内会などの会費 (補助費等)	66 万円	68 万円	2 万円
				子どもへの仕送り (繰越金)	39 万円	40 万円	1 万円
				貯金 (積立金)	2 万円	2 万円	0 万円
				その他 (投資及び出資金、貸付金)	1 万円	1 万円	0 万円
				合 計	401 万円	394 万円	▲ 7 万円

収入と支出の差額

次年度への繰り越し (R2年度への繰越金)	6 万円
--------------------------	------

R1年度末の貯金残高 (R1年度末の基金残高)	24 万円
R1年度末の借金残高 (R1年度末の市債残高)	369 万円

※財政調整基金と公共公益施設整備基金の合計

※一般会計における借金残高